

を変更し一泊二日に切り替えましたが、スタッフたちが臨機応変に対応して、参加者は十分楽しめたようでした。また企画・運営に携わりたいという中高生が起こされ、来年度60回大会は米子の中高生が中心となって開催される予定です。これまでの神戸教区の宣教を考える時、この中高生大会と青年交流会の充実を抜きにして考えることは出来ません。多くの青年たち、教役者たちもこれらの行事を通して、神様と出会い、友人にも出会うことができました。今後も力を入れていきたいと考えています。

セーフ・チャーチ・ガイドライン

2019年の第17回全聖公会中央協議会(ACC-17)において決議され、アングリカン・コミュニオン諸管区が実施することを求められています。このガイドラインはアングリカン・コミュニオン諸管区のすべての人たち、とともに子ども、青年、弱い立場のおとなの安全を高めること

を目的としたものです。日本聖公会もこのガイドラインを翻訳した「セーフ・チャーチ・ガイドライン(日本聖公会・ワーキンググループ編)」を作成しました。

召命研修会

9月18日(月・祝)大聖堂において「召命研修会」を開催しました。毎年行ってきた聖職候補生養成委員会主催の「召命黙想会」を今年は、「召命研修会」として、参加者を、聖職を志す人に限定せず、広く召命を考える機会としました。講師に吉田雅人主教様をお招きして二回の講演



をお願いしました。色々な角度で神様からの「召命」ということについて、考える機会が与えられたと思います。後日、この研修会に参加した方から聖公会神学院が行っているオンラインによる「信徒の奉仕・召命コース」という8か月のコースを受講してみた、という希望を聞かせていただきました。その方は、その次の「特任聖職特別コース」も視野に入っておられるようでした。どうぞ、他にも学びに関心がある方は、まず聖公会神学院が行っているオンラインの「信徒の奉仕・召命コース」の受講を検討してください。

日本聖公会宣教協議会

11月10日(金)から13日(月)山梨県清里を会場に「いのち、尊厳限りないもの」となりびととなるために」をテーマに、「2023年日本聖公会宣教協議会」が開催され「となりびととなるために」次の3つがあげられました。
①神のみ声に耳を傾けること
— 宣教の主体が神であるこ

とを確認するために
②人々の声に耳を傾けること
— 「いのち」を大切にするために
③世界・社会に耳を傾けること
— その必要に応え仕えるために

「日本聖公会神戸教区宣教150年記念」に向けて

今教区会に「日本聖公会神戸教区宣教150年記念委員会」を設ける件が議案として提出されています。神戸教区宣教150年である2026年の9月23日(水・祝)に向けて、記念委員会を設け、記念礼拝、諸行事を計画、実行していきます。宣教委員会の提案「わたしたちのビジョン」として
日本聖公会神戸教区宣教150周年まであと3年「ともに聴き 分かち合い 伝えていこう、イエスさまのみ言葉を」という宣教フレーズを掲げます。宣教150年までの3年間を宣教のための特別な時として位置づけ、聖書のみ言葉に聞き、分かち合っ

かされ、その喜びを隣人に伝えていく宣教の時としたいと考えます。宣教委員会から教区、教会へ、また教役者、信徒への提言が示されています。財政委員会では現在、拠出金の在り方について検討がされています。それに加えて、教区財政全般にも目をむけなければならぬ時が来ています。この問題についても教区を挙げて対応していきます。

イエス様は「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていけば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである(ヨハネによる福音書第15章5節、2023年日本聖公会宣教協議会主題聖句)」と書かれています。私たちは、このイエス様にながらること、つながっていることを大切に、豊かな実を結びたい。共に手を携えて宣教150年に向かって福音の宣教に励んでいきたいと願っています。